

本日お集まりくださった方のなかには、1月14日の私の最終講義の日がセンター試験の日でしたので、いらっしやれなかった方もありました。私の誕生日は1月22日ですので、最終講義の時はまだ70歳にはなっていませんでした。ついですが、植月恵一郎君の誕生日も1月22日で、彼の奥さまの原田祐貨さんの誕生日も同じです。さらに、ついでに言えば1月22日はパイロンの誕生日で、水瓶座です。ヴィクトリア女王がワイト島のオズボーン城で1901年に亡くなったのも1月22日でした。

今日、このように古稀の御祝いをしていただいで光栄ですが、今日は私の古稀の会というよりも主たるものは出版記念会です。群島水曜会のメンバーが中心となって、とにかく、論文集が出来てこのような会が開けて、本当に良かったと思っています。この間の植月恵一郎君と間瀬裕子さんの献身的なご尽力には感謝してもし過ぎることはありません。

群島水曜会のことは論文集の「まえがき」に書きましたので、それをお読み下さい。これまで、論文集を出そうという話は群島水曜会のなかで、私の選暦の時、群島水曜会100回記念の時とか何度も出ましたが、なかなか実現せず今回やっとこのような形で実現できました。論文集の後ろに187回に及ぶ群島水曜会の記録を載せました。よくまあ、続いたものだと思います。出席者が少なく、もうやめようかと思ったことも何回かありましたが、やはり「継続は力なり」です。群島水曜会は187回をもってここに終わりました。終結宣言とします。

余談ですが、小学校3年生の孫が傍らで算数の本を読んでいて、おじいちゃん「素数」とは何、と聞かれたことがありました。素数とは1とそれ自身の数でしか割り切れない数のことですから、187は素数ですね。これは、まさに群島水曜会を象徴しているような気がしています（*187は11で割れますので、素数ではありませんでした。訂正します。）

そういうわけで、この本は群島水曜会編にするはずでしたが、いろいろの事情でこのようになりました。

論文集の中味、つまり論文の質のことですが、これから色々と批評が出ることと思います。私が27年間学習院に勤めましたので、執筆者の年齢層は多岐にわたっていま

す。それぞれの執筆者が力の限りに頑張ってくれたと思っています。先輩である方々にお願いですが、若い方の執筆者の今後の成長を期待して、ぜひ彼らを応援して下さい。

ここで、若い方々に申し上げるのですが、とにかく書かなければ駄目です。何でもいいから書くことです。そして書いているうちに書けるようになっていくのです。自分を信じて書きなさい。テキストをいくら沢山読んでも書かなければ駄目です。そして、書いたものを集めて一冊の本にすることです。書いたものが本になる分量になれば、必ず本は出来ます。本がないと、あの人はブレイクをやっているとか言われても、その人が何を考えているのか他人には知ってもらえません。私の先生である平井正穂先生は私の出版記念会で、「本の形でレポートを出せ」ということをおっしゃいましたが、執筆者の諸君に私もそう言いたいと思います。

今日は家内が自費出版したエッセイ集も皆さんにお渡ししました。自費出版といっても、お金を出したのは私ですので、お荷物になることと思いますが、サバティカルの時の私のことが本の中にちょくちょく出てきますので、お暇な折にでも読んでいただければ、書いた家内も嬉しいと思います。

最後になりますが、英文科の同僚の方々には何度も送別会に出ていただいて恐縮しています。また、学習院大学外国語教育研究センター所長の高柳信夫氏、ロマン派学会の前会長鈴木雅之氏、4月から会長になられる笠原順路氏を初めとして、高山信雄さん、広瀬友久さんなどロマン派学会の方々、小林精衛君、竹中昌宏君、新見肇子さんなど大学時代からの友人、色々とお有難う。学習院の大学院の修了生、院生の諸君、ありがとうございます。栗原勝さん、ぼくはあなたとは師弟関係も何もないのに、最終講義、そして今日の会と2度も来ていただいて恐縮しています。また、國學院大学時代に仲人をした西川夫妻も来て下さいました。

今日の論文集を作ってくださいました音羽書房鶴見書店の山口隆史さん、これまで僕の本を作ってくれた元北星堂で現在は栄光社の社長さんでいらっしゃる藤平英一さん、編集者で本の城の本城正一さん、元丸善で今はユーリカ・プレスの小森高明さん、色々とお有難う。皆さんのおかげで、幸せな人生が送れました。本当にぼくの周りには良い人ばかりでした。

『テンペスト』のミランダの言葉、「ああ、すばらしいわ。なんて良い人ばかりがここに居るのでしょうか。なんて美しいのでしょうか、人間というのは！ ああ、すばら

しい新世界ね、こんなに素敵な人たちがいるなんて。」

(O wonder! How many goodly creatures are there here! What beauteous mankind is! O brave new world, That has such people in't!)

しかし、There's a time for all things. (何事にも潮時があります) (*Comedy of Errors*)。まだ、ぼくは遺書は書いていないのですが、葬式は家族だけでしてもらおうと思っています。従って、このように皆さまに集まっていたのは今日が最後だと思います。これで退場です。ここで、プロスペロ (Prospero) のエピローグを暗唱すればかっこいいのですが、昔はできたのですが、昨日テキストを出してみたら駄目だとわかりました。皆さん、お元気でお過ごし下さい。今日は本当に有難うございました。

(平成 24 年 3 月 25 日)